

# 事業案内

2024(令和6)年度事業報告  
2025(令和7)年度事業計画



社会福祉法人  
千葉いのちの電話

24時間年中無休  
相談電話 043-227-3900

# CONTENTS

ごあいさつ .....	1
千葉いのちの電話の理念 .....	2
2024（令和6）年度事業報告 .....	3
I. 相談事業報告	
(1) 電話相談事業 .....	3
(2) 電話相談概況 .....	5
(3) インターネット相談事業 .....	9
(4) 対面相談事業 .....	10
(5) 自死遺族支援事業 .....	11
II. 養成と研修 .....	13
III. 活動報告 .....	14
IV. 他機関との連携 .....	17
2024（令和6）年度 決算報告 .....	18
2025（令和7）年度 事業計画基本方針 .....	21
2025（令和7）年度 事業目標 .....	21
千葉県いのちの電話協会 .....	22
役員名簿 .....	23
千葉いのちの電話役員名簿	
研修専門家部会名簿	
千葉県いのちの電話協会役員名簿	
ご支援のお願い	

# ごあいさつ



社会福祉法人 千葉いのちの電話

理事長 友田 直人

2024（令和6）年度も幅広い県民の皆様のご支援を賜り、ここに千葉いのちの電話の事業報告並びに2025（令和7）年度の事業計画をご報告できますことを深く感謝申し上げます。

昨年度は、新年早々の能登半島地震の悲報に始まり、その後の復興に関しては思うように進まぬ状況に行政やボランティアの方々の苦労が伝わるようでした。厚労省の後援で日本いのちの電話連盟が能登半島地震予約制フリーダイヤルを開催しました。千葉いのちの電話も僅かでもお力になれないかと、メンバーとして参加させていただきました。東日本震災ダイヤルに続き、いのちの電話として全国的なネットワークを生かした、今後の活動の一つの方向を示唆しているかとも思います。

電話相談については、一昨年のコロナの5類への移行の後に相談員も徐々に戻り、また新たに養成研修を経て9名の方がボランティアに加わっていただいたこともあり、ほぼコロナ禍前の水準の17,958件の相談を受けて参りました。

また、電話相談のほかにも千葉いのちの電話では現在、対面相談・インターネット相談・自死遺族支援活動を既に始めて20年弱になります。多様な手段で相談者の選択肢を増やすことの検討は、いのちの電話の将来の存在意義にもつながる重要なことではないでしょうか。

今年度は4月から20名の方達が養成研修に頑張っています。最近の傾向として比較的若い方やお仕事を持ちながら余暇を役立てたいという方々が増えています。地味ではありますが、自殺予防という大切な活動にボランティアとして志願されようとお志には頭が下がる思いです。結果、現在200名を超える相談員が上記の4事業に日々相談活動を担ってくれています。

一方、課題ですが、何れのいのちの電話でも共通ですが、電話相談したい時に繋がらずお待ちいただく時間帯もあり、決して十分な体制とは申せません。現状では改善のためには相談員を増やすしかありません。しかし将来的には、各いのちの電話が連携して24時間365日体制を維持することや、また近年技術開発が著しく、日進月歩のAIの力を取り入れて少しでも利用者の便宜を改善することも検討する必要があると考えています。

2024年の統計では、全国の自死総数は20,320人とコロナ禍で高止まりする以前の数字に戻りました。ほぼすべての年代性別で減少している中で、19才以下の女性が379人から430人に大きく増えていること、児童生徒の自死が令和元年399人から529人に増えていることが挙げられています。この現状をどうしたらいいのか、私たちは真剣に受け止めなければいけません。私たち大人全員の責任として問われているのです。昨年度私たちはトライアルですがLINE相談を開始しました。件数はまだ多くはありませんが、利用者の平均年齢層は30代をピークに40代30代で全体の6割を占めます。電話の50代に比しより若年層の声にも応えらるようになっていることがわかりました。これからもう一つの柱となるよう、育てて参りたいと思っています。

今年度も、私たち相談員一人ひとり、様々な問題をかかえ生きることに苦悩する人に寄り添い、傾聴と共感で応える、という基本理念を常に忘れず、地道に相談活動に全力を尽くしながら、変化する時代の要請に応えることを目指し、社会へ貢献して参りたいと存じます。

引き続き千葉いのちの電話に対するさらなるご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

# 千葉いのちの電話の理念

千葉いのちの電話はかかわりを求め、なんとか対処しようと苦悩している人たちに「私たちがここにいるよ」と表明し、寄り添いかかわりを求められる存在でありたいと望んでいます。そのために傾聴を基本の姿勢として、時には自殺まで思うほどの精神的危機にある人に寄り添い、対等な人間としてかかわりを持ち支え合う相談活動をしています。また、使命の大きな柱である自殺予防のため、裾野の広い自殺予防活動を行います。

## 相談援助活動の4本の柱

### 電話相談

043-227-3900  
24時間365日  
年中無休

わかちあいの会  
- 自死遺族支援 -

### 対面相談

- こころの相談室 -  
予約専用電話  
043-222-4331



インターネット  
相談

## ◆ 千葉いのちの電話の歩み

- ・ 1988年 1月 設立準備委員会発足
- ・ 1989年10月 1日 千葉いのちの電話開局
- ・ 1990年10月20日 千葉県いのちの電話協会発足
- ・ 1993年12月28日 社会福祉法人設立認可
- ・ 2001年 6月13日～16日 第22回いのちの電話相談員全国研修千葉大会・第10回アジア太平洋地域電話カウンセリング国際会議開催
- ・ 2005年10月 千葉市社会福祉功労表彰
- ・ 2006年11月 自死遺族支援「わかちあいの会ひだまり」を開始
- ・ 2007年 6月 1日 新会館（CIDビル）に移転
- ・ 2008年 7月 インターネット相談開始
- ・ 2009年 4月 対面相談開始
- ・ 2009年11月 千葉日報社会福祉賞受賞
- ・ 2010年10月 社会貢献者表彰
- ・ 2011年 3月～2013年 9月26日 「震災ダイヤル」参加
- ・ 2013年 3月 「ナビダイヤル」参加
- ・ 2013年12月25日 千葉県社会福祉賞受賞
- ・ 2014年 9月27日 厚生労働大臣表彰
- ・ 2014年10月 1日 開局25周年記念式典
- ・ 2015年 9月30日 千葉県いのちの電話協会25周年記念式典
- ・ 2019年10月 1日 開局30周年記念式典
- ・ 2020年 6月 コロナ禍対応「毎日フリーダイヤル」参加
- ・ 2022年 6月 千葉市地域社会貢献者褒賞を相談員が受ける
- ・ 2024年10月26日 開局35周年記念式典
- ・ 2025年 4月 1日 幅広く応えるためLINE相談開始

## 社会福祉法人 千葉いのちの電話 概況

(2025年4月1日現在)

【設立】1989年10月1日

【法人認可】1993年12月28日

【組織】理事：9名 監事：2名 評議員：17名 後援会役員：13名 監事：1名

【認定者累計】1,272名 【実動相談員数】198名 【活動ボランティア数】11名

# 2024（令和6）年度事業報告

（2024年4月1日～2025年3月31日）

## はじめに

福祉サービスの提供として精神的危機に直面し、援助と励ましを求めている人びとと、主に電話という手段で対話し、健全な社会人として生活することが出来るよう援助し、その他にこれに関連するサービスを提供し、もって社会福祉の増進に寄与することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

定款（目的）第1条

この一文は、千葉ののちの電話の活動の使命や理念を表わし、定款の第1条に掲げています。私たちはこの目的の実現のために市民運動のボランティア組織ではありませんが、責任ある組織として活動を継続して参りました。2024（令和6）年度の電話相談・自死遺族支援・対面相談・インターネット相談の4相談事業の活動の概要を中心に、ここにご報告させていただきます。

## I 相談事業報告（2024年4月～2025年3月）

### (1) 電話相談事業

電話相談事業部会

#### 1. ダイヤルの種類と電話台数

1	千葉センターへの相談ダイヤル 043-227-3900	1989.10.1～ 現在電話台数4台（1台は予備使用）	
2 ※	10日フリーダイヤル「自殺予防ののちの電話」 0120-738-556 24時間8時～翌8時	2001.12～ 連盟事業に参加	1台
	毎日フリーダイヤル「自殺予防ののちの電話」 0120-738-556 *毎水曜日16時～21時 (但し第二は除く)	2020.7～ 連盟事業に参加 *千葉は水曜日（第2除）のみ	
3	ナビダイヤル利用 0570-738-556	2013.3～ 連盟事業に参加：通常電話に組込まれている	

#### 2. 活動内容

2025年3月に35期生9名が認定され、3月末の在籍者数に加わったが、辞退者と同数で相談員数の増加はならなかった。

2024年度も前年度同様に365日24時間実施を目指したが、深夜帯（5帯；21：30～翌7：30を2人で交代）は、埋まりにくい状況が続いた。2024年度の深夜帯の年間実施率は58.9%で、2023年度の68.2%（7月～3月）に比べて10%近く低下した。前年同月期間（7月～3月）の比較では12%弱低下している。4月、9月、3月が50%を下回っているのは、仕事を持ちながら相談員

をしている人が多いために、社会的に多忙な時期に深夜帯を担当することが難しいからのように思われる。

また、休務者数も在籍者数の17.5%、0回者が担当人数の10%、月の担当回数は、2回以上を担当している人が実績者数の64.4%となっており、月2回以上、その内深夜帯を年間5回以上の申し合わせが気になりつつも、なかなか活動が難しい人が増えているように思われる。

ただ、必要延べ人数（2人づつ、フリーダイヤル5帯のみ4人）に対して実績延べ人数は、平均としては上回っており、帯の担当人数に偏りがある（5帯や1帯、4帯が埋まりにくい）ことが歯がゆく悩ましい。以前から相談員の高齢化、不足は言われており、相談員の募集はセンター全体での対応を待つしかないが、今もこれからも重要なこととして、いのちの電話相談は、自殺予防の観点から他の相談機関があまり実施していない時間帯により必要だという意識を高め、相談員同士で連携していくことに働きかけたいと考えている。

### 3. 特記事項

①連盟（内閣府）「孤独・孤立相談ダイヤル」に参加

：5月6日（月）13：00～16：00

②連盟（厚生労働省）9月「自殺予防週間」フリーダイヤル（10日から1週間実施）に参加

：9月11日（水）8時～11時、9月13日（金）～翌日8時  
3月「自殺予防月間」フリーダイヤル（10日から1週間実施）に参加

：3月13日（木）8時～14日（金）11時まで

③連盟（厚生労働省）「能登地震予約制フリーダイヤル」（6/20～受付開始）参加

千葉センターは、9月21日（土）から参加。プロジェクトを作成し事前研修あり（13名）。

利用はまだ少なく、実績は2月21日（金）11：00に1件のみ。

### 4. 電話担当調整

①「電話担当調整割当て週」による方法

- ・継続グループ毎に1週間ずつ担当調整を担当（年に3回～4回）
- ・2024年度から認定後1年目継続研修グループも担当に含めることとした。

②「空き情報」の連絡網発信による方法

- ・役員から各グループ連絡係に発信し、連絡係がグループメンバーへ流す（基本月に2回）

### 5. 会議

①役員会議・毎月1回及び必要によって役員6名前後で開催。

実績把握や課題の共有、定例会議の準備や作業を行う。

②定例会議・年度6回（開催月の第3土曜午前）開催し、役員と各継続グループ代表（20名）による定期的な会議で、実績報告や課題の共有、改善点を話し合う。

## 6. その他

- ① ボランティア連絡協議会への参加
- ② 非常用備蓄品等の管理（補充・買い出し）等
- ③ 年末年始の電話担当者への慰労の茶菓子の用意

## 7. 課題

- ① 働いている相談員が多く、電話相談以外での役員等の活動をしてもらうための工夫が必要である。一部の人への負担が大きく、今後の組織を維持していくためには何らかの方策が求められている。
- ② 相談員数を増やすための方策が必要である。電話担当回数が、月0回と月1回の相談員の占める割合が大きく（約30%）、仕事の都合や他事業活動兼務で1回しかできない人が増えている。
- ③ 深夜帯（5帯）を実施することの意義を伝え、深夜帯実施を維持するための対策が必要である。
- ④ 1帯（7：30）～5帯（21：30～7：30）までの各時間帯に「空き」が生じないように各帯が平均的に埋められていくための相談員間の相互扶助と相談員個人個人の主体的な協力を呼び掛けていく。

## (2) 電話相談概況

### 電話相談研修担当者会

受信数			累計		
2024年4月～2025年3月（365日）			1989年10月～2025年3月		
総受付件数	17,958件		総受付件数	746,511件	
一日平均	49.2件				
男	7,968件	44.4%	男	330,928件	44.2%
女	9,875件	55.0%	女	413,288件	55.4%
その他	115件	0.6%	不明	2,295件	0.3%

### ●ダイヤル種類別の受付件数

	総件数	男		女		その他	
		件数	%	件数	%	件数	%
通常	15,479件	6,873	44.4%	8,500	55.0%	106	0.7%
フリーダイヤル	768件	397	51.6%	368	47.9%	3	0.4%
*ナビダイヤル	1,168件	470	40.2%	692	59.2%	6	0.5%
*毎日フリーダイヤル	543件	228	42.0%	315	58.0%	0	0
総計	17,958件	7,968件	44.4%	9,875件	55.0%	115件	0.6%

## ●ダイヤル種類別の自殺傾向

	総受信数	念慮			危険			予告・通告		実行中	
		男	女	その他	男	女	その他	男	女	男	女
通常	1,357件	487	768	5	24	46	1	8	10	2	6
フリーダイヤル	147件	63	73	0	1	7	0	1	2	0	0
ナビダイヤル	162件	57	93	0	2	7	0	1	1	1	0
毎日フリーダイヤル	102件	36	63	0	1	2	0	0	0	0	0
総計	1,768件	643	997	5	28	62	1	10	13	3	6

\*総受信件数17,958件のうち自殺傾向は1,768件（男684件・女1,078件・その他6）総受信件数の9.8%

## ●2024年度の電話相談概要

様々な環境の中で、孤立・孤独感を抱えながら、自ら課題に向き合う相談件数は、増加傾向にある。2024年4月から2025年3月までの電話相談概要は次の通り。

### 1. 受信件数

年間総受信件数は17,958件。2023年度の18,481件に対し、523件（2.9%）の減少となった。一日平均の受信件数は、49.2件。

受信件数の内訳は、男性が7,968件（44.4%）、女性が9,875件（55.0%）、その他不明115件（0.6%）だった。

昨年度と比較すると男性の相談件数が減少し、女性の相談件数が増加した。

### 2. 自殺傾向

総受信件数17,958件のうち、自殺傾向件数は1,768件（男性684件・女性1,078件・その他6件）で、総受信件数の9.8%に自殺傾向が見られた。

昨年度と比較すると、男性の自殺傾向件数は減少したが、女性の自殺傾向件数は、昨年度（995件）より増加している。

### 3. 相談内容別件数と自殺傾向

相談内容は、男女とも生き方、生きがい、孤独に関する「人生」の相談が多く、生きづらさを語る。「人生」の相談件数は、3,588件で総受信件数の20.0%を占めている。

男性は、「人生」の次に病に関する「精神」、ハラスメントやいじめなどの「対人」の順となっている。女性は、「人生」の次に「家族」、「対人」、「精神」の順となっている。

自殺傾向件数では、「人生」に関する相談が540件、次に「精神」に関する相談が454件となっている。

自殺傾向率は、「精神」が17.4%、「人生」が15.1%、「夫婦」が13.8%となっている。

フリーダイヤルでも、同様の傾向が見られるが自殺傾向率が19.1%を示し、総受信件数に対する自殺傾向率（9.8%）より高い率を示している。

#### 4. 年代別相談件数と自殺傾向

年代別の受信件数は、50代が多く総受信件数の14.6%を占めている。次に60代、40代の順となる。

自殺傾向件数は、50代が最も多く、40代、60代と続き、40代から60代で全体の43.6%を占めている。

自殺傾向率では、40代が14.4%、30代が13.8%を示し、若い年代の自殺傾向率が高くなっている。

各年代とも、孤立、孤独感の中で「生きづらさ」を語る相談が増加している。

#### 5. 精神疾患有無別相談件数と自殺傾向

精神疾患を持たれる方は、「病歴あり・治療中・疑い」を含めると、総受信件数17,958件のうち7,863件で全体の43.8%を占める。

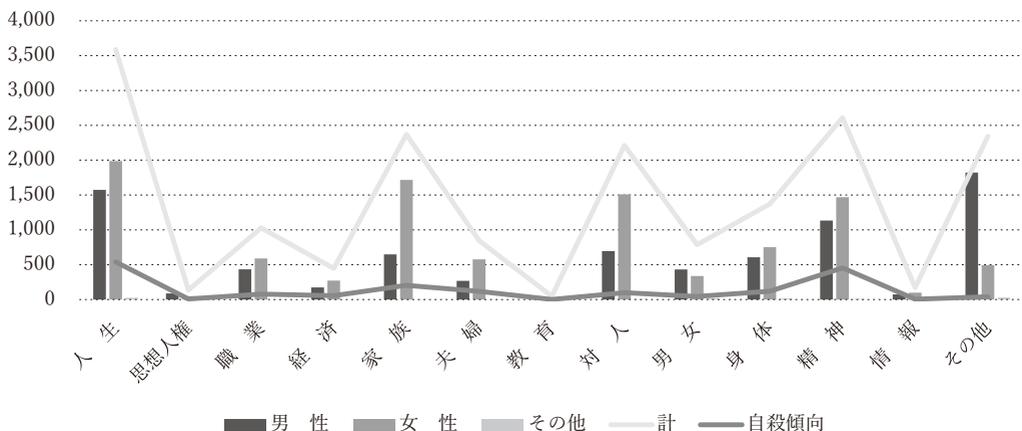
現在「治療中」の方で、自殺傾向が見られる件数は、1,059件と高くなっている。

#### 6. 自殺未遂歴

自殺未遂がはっきりしているケースは、727件で総受信件数の4.0%にあたる。昨年度（699件）と比較すると自殺未遂歴のある方の相談件数が増加した。

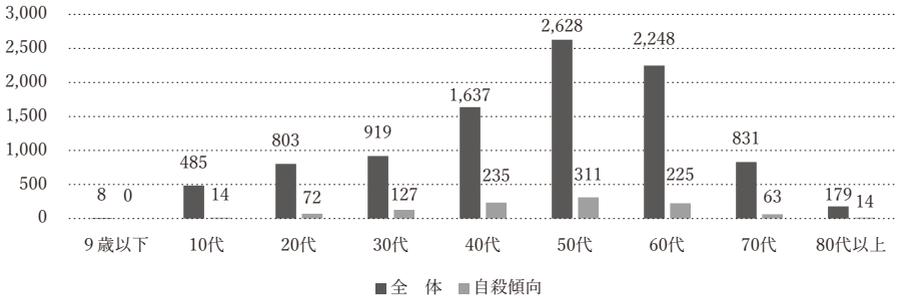
#### ◆ 内容別相談件数と自殺傾向（通常・自殺予防・毎日FD・ナビダイヤル）

(2024.4.1～2025.3.31)



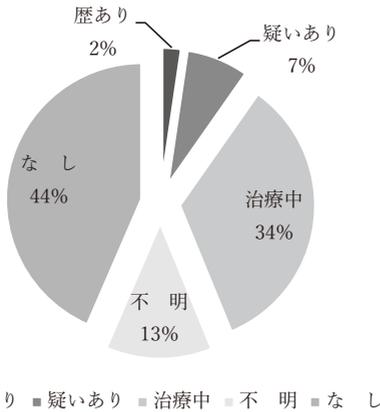
	人生	思想人権	職業	経済	家族	夫婦	教育	対人	男女	身体	精神	情報	その他	総計
男性	1,574	87	433	175	648	268	19	695	432	606	1,134	75	1,822	7,968
女性	1,988	48	589	272	1,716	576	28	1,510	337	752	1,468	98	493	9,875
その他	26	1	6	0	5	1	0	7	18	14	8	0	29	115
計	3,588	136	1,028	447	2,369	845	47	2,212	787	1,372	2,610	173	2,344	17,958
自殺傾向	540	9	78	55	205	117	1	99	44	120	454	5	41	1,768
%	15.1	6.6	7.6	12.3	8.7	13.8	2.1	4.5	5.6	8.7	17.4	2.9	1.7	9.8

◆ 年代別相談件数と自殺傾向 (2024.4.1~2025.3.31)

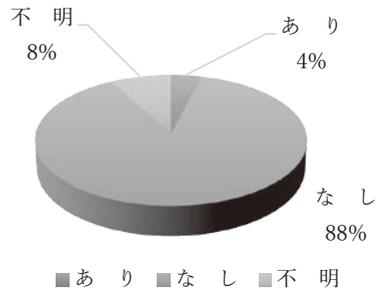


年代	9歳以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明	総計
全体	8	485	803	919	1,637	2,628	2,248	831	179	8,220	17,958
自殺傾向	0	14	72	127	235	311	225	63	14	707	1,768
%	0	2.9	9	13.8	14.4	11.8	10	7.6	7.8	8.6	9.8

◆ 精神疾患有無別相談件数 (2024.4.1~2025.3.31)



◆ 自殺未遂歴 (2024.4.1~2025.3.31)



	歴あり	疑いあり	治療中	不明	なし	合計
計	417	1,338	6,108	2,288	7,807	17,958
自殺傾向	53	180	1,059	173	303	1,768

	あり	なし	不明	計
計	727	15,765	1,466	17,958
自殺傾向	436	948	384	1,768

### (3) インターネット相談事業

### インターネット相談事業部会

今年度は休務者が2名～3名あったため部員数10～11名で活動することが多かったが、毎月7回の返信活動は通常通り担当者3名～2名で継続することができた。年度末には1名が退部したが、新人1名が認定されたので、25年度は12名で活動することになった。受信数は月平均約12件で減少傾向が続いた。今年度後半はやや回復してきたが、担当日によっては0件のこともあった。このようなことは初めての経験だった。ネット相談の知名度を上げるため、パンフレットの作成や配布、地域新聞に掲載等をした。一年間の相談統計では、地域別、性別、年齢別は昨年度とほぼ同様の傾向で、千葉県内及び男性が多く、年齢層では40代と60代が多く20代、50代が続いた。相談内容は精神が最も多く、人生、家族と続き、これも昨年度と同様であった。継続研修は上田将史講師のご協力を得て6回行うことができた。GSV（グループスーパービジョン）も継続していただき個別の学びの機会を与えられた。また、9月には、同氏による宿泊研修が行われ、講義やワークショップを通して多くの学びができ貴重な体験だった。2回の外部講師による研修は公開で行い、他の相談部員と学びを共にすることができた。自主研修ではメンバーの発表を通して、改めてネットやシェアリングの意義を考えることができた。10月からはLINE相談が開始された。相談ツールがもう一つ増えることで、相談者がより利用しやすくなることを願いながら、共に学び、歩んでいきたい。

#### インターネット相談統計（2024年4月～2025年3月）

地域別		性別		相談回数	
千葉県	95	男	73	1回	61
その他	11	女	40	2回	31
不明	8	不明	1	3回	22
計	114	計	114	計	114

#### ■ 年代別相談件数

年代別	9歳以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	計
件数	0	4	19	10	31	16	26	1	7	114

#### ■ 自殺傾向

自殺傾向	なし	念慮	危険	予告	実施中	不明	計
件数	70	35	0	0	0	9	114

#### ■ 相談内容別

相談内容	人生	人権	職業	経済	家族	夫婦	教育	対人	男女	身体	精神	情報	その他	計
件数	23	3	3	10	12	8	2	8	1	4	40	0	0	114

## (4) 対面相談事業

## 対面相談事業部会

2009年に対面相談を開始して以来、この15年間で対面相談実施総件数は1,886件となった。2024年度は、引き続き感染症の予防策として受付室及び相談室の清掃・消毒の徹底を図るとともに、相談員各自が健康管理に留意しつつ、適正な相談業務に当たってきた。

2024年度の対面相談実施件数は、141件と前年度（161件）の12%減となった。

男女別では、男性が62件（前年度55件13%増）、女性が79件（前年度106件25%減）と男性が全体の44%で女性が全体の56%となり比率割合の差が縮まっている。

年代別では、70代女性が最も多く、全体の2割強となっている。男性に関しては30代から60代までほぼ同じような件数となっており、全体では70代・60代・50代・30代・40代・20代の順となっている。

相談内容別では、「人生」「家族」「自死遺族」の順に相談が多い傾向になっており、自死遺族に関する相談が増えた結果となった。自死遺族の増加に関しては、自殺者の増加と密接に関係しているが、経済的・社会的要因、精神的な問題、ネット環境の変化などが影響を与えている。現実社会では理想的とは程遠い社会の中で進む経済的不安や孤独感、社会的な孤立やストレスが助長している。また社会的な分断が深刻化している中で、家族を含めた人間関係の不安定さや希薄化、メンタルヘルス不調、こころの拠り所のない閉塞感、虚無感が表れている。

来談経緯の情報源別では、ホームページが最も多く、次に3事業からの紹介となっている。インターネットの普及とともに、アクセスのしやすさからホームページの有効性が認められる。3事業からの紹介については、各事業からの相互の連携による成果が表れている結果となった。

自殺志向に関しては、念慮が7件あり全体の5%となっているが、相談者に対して継続しての面談を行うことで、念慮の自殺志向がなくなる傾向となった。

時代の変化とともに、人間関係の構築がうまくいかず孤独感を抱える方が増えているように感じる。研修を通し心の動きとともに自己を表すことや互いに支え合うことの意味を学ぶことで、この場所が相談者にとって「真のこころの拠り所」となるよう、ビフレンディングの姿勢をつなげていきたい。

### ◆ 対面相談実施件数

年 度	実施件数
2009年～2023年	1,745
2024年	141
計	1,886

### ◆ 対面相談実施件数 男女別

年 度	実施総数	男	女
2024年	141	62	79

※自死遺族個別相談11件含む

### ◆ 対面相談実施件数 年代別

年 代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
男	0	0	13	16	16	15	2	0
女	0	2	12	4	9	19	33	0
計	0	2	25	20	25	34	35	0

◆ 相対面相談実施件数 相談回数別

1回: 26	2回: 19	3回以上: 96
--------	--------	----------

◆ 対面相談実施件数 相談内容別

項目	人生	職業	経済	家族	対人	身体	精神	自死遺族
件数	49	0	0	33	18	0	15	23

◆ 対面相談実施件数 情報源別

情報源	地域新聞	HP	広報誌	3事業	公開講座	ポスター	その他
件数	23	38	8	28	0	0	44

◆ 自殺傾向

傾向	なし	念慮	危険	予告	自傷等
件数	134	7	0	0	0

◆ 自死遺族個別相談（於：印旛合同庁舎）

相談件数：11件	来談者数：11名
----------	----------

## (5) 自死遺族支援事業

### 自死遺族支援事業部会

わかちあいの会「ひだまり」は、千葉会場で毎月第3土曜日、柏会場で奇数月第2日曜日、印旛会場で偶数月第3金曜日を実施している。今年度は、台風接近のため印旛会場が1回中止になっている。茶話会の千葉会場や例年開催している「ミニ講演会・交流会」の会場がひだまりと同じ千葉市生涯学習センターに統一されたので、参加者も場所が分かり易くなったと思う。

ひだまりの参加者169名のうち33名が初参加であり、死別後間もない遺族の参加が増えている。この会のことはネットで検索してホームページから見つける方が多く、ひだまりと個人対面相談と両方に参加する方もいる。また、地域新聞を見て参加する方もいるが、「自死」という言葉をあまり知らない方もいるので掲載記事の表記を今年度から「自死（自殺）遺族」とした。

自死遺族は、深い悲しみや自責の念に加えて個々にいろいろな思いを抱えている。アンケートの回答を共有したり、振り返りを充実させたりして、参加者がひだまりを安全で安心な場と感じてもらえるように寄り添っていく努力をこれからも続けていきたい。

◆ 自死遺族支援事業部研修・個人SV研修・振り返り及びスタッフ会議

〈継続研修〉 講師：末松渉氏（2/3を除く）

- 4/ 1 わかちあいの会でのグループの果たす役割や約束事について（自主研修）
- 5/27 わかちあいの会の振り返りのあり方
- 8/ 5 わかちあいの会へのスタッフとしての向きあい方
- 9/ 2 わかちあいの会での事例検討
- 10/ 7 わかちあいの会で大切にしていること
- 12/ 2 茶話会のあり方について
- 2/ 3 エンカウターの講義と実践（西浦加代子氏）
- 3/ 3 1年間のまとめ

〈個人SV〉

- 6/ 3 個人SV研修 3名

- 7/ 1 個人SV研修 3名
- 11/18 個人SV研修 3名

〈振り返り及びスタッフ会議〉

開催日：毎月第1月曜日 10：30～12：30

- ・[前半；振り返り（自主研修）] 前月のひだまりや茶話会の報告書をもとに話し合い、スタッフ間の共通理解を図る。疑問が残った課題については、講師に指導を仰ぐ。
- ・[後半；スタッフ会議] 各委員会等の報告や部内の報告事項を行うことと、部内での協議事項について話し合う。

◆ 令和6年度 自死遺族支援実施センター合同研修会

令和7年2月9日（日） 会場；CIDビルー zoomーにて

（担当；佐賀いのちの電話）

- ・ 講演「自死遺族の支援を考える」  
講師：山口和浩氏（NPO法人自死遺族支援ネットワークRe 代表）

◆ ミニ講演会・交流会

10月6日（日） 会場；千葉市生涯学習センター（参加者17名）

- ・ 講演「生き続けるということ～たいせつな人と共に～」  
講師：石丸昌彦氏（精神科医、放送大学教授）
- ・ 講師を囲んで交流会

◆ ひだまり開催と参加者数（2024年4月～2025年3月）

年度	開催回数	会場別参加者数（人）						累計	参加者内訳（人）	
		千葉	習志野	柏	君津	印旛	浦安		男	女
～2023	439	790	6	763	11	166	2	1,738	621	1,117
2024	23	110		40		19		169	77	92
計	462	900	6	803	11	185	2	1,907	698	1,209

◆ 茶話会開催と参加者数

年度	茶話会回数	参加者数	参加者内訳	
			男	女
～2023	43	206	46	160
2024	4	9	6	3
計	47	215	52	163

◆ 2024年度 合計

会場	開催数	参加者数	死別対象					備考	
			子ども	親	兄弟姉妹	配偶者	その他		
ひだまり	千葉	12	110	62	2	13	35		重複 2
	柏	6	40	23	6	4	7	孫1	重複 1
	印旛	5	19	7	1	6	5		
	計	23	169	92	9	23	47	1	重複 3
茶話会	柏	2	3	0	1	0	2		
	千葉	2	6	3	0	1	2		
	計	4	9	3	1	1	4		
合計	27	178	95	10	24	51	1	重複 3	

## Ⅱ 養成と研修

### (1) ボランティア相談員の養成

- ①35期ボランティア相談員養成基礎講座 9名
  - I 課程 4月～ 5月 (講義、宿泊研修)
  - II 課程 5月～ 7月 (グループ研修)
  - III 課程 8月～10月 (講義、グループ研修)
  - IV 課程 11月～ 3月 (講義、電話実習、グループ研修、個人スーパービジョン)講師 友田直人氏、永原伸彦氏、清水新二氏、亀井雄一氏、佐藤俊一氏、木村登紀子氏、西浦加代子氏、末松渉氏
- ②対面相談事業 11期養成研修 4名  
4月～2月 (講義、グループ研修) 講師 佐藤俊一氏
- ③インターネット相談事業 養成研修 1名  
6月～2月 (講義、グループ研修) 講師 上田将史氏、石川真紀氏、平田園氏
- ④4事業合同研修担当者2期養成研修(2年目) 7名  
4月～1月 (講義、グループ研修、宿泊研修) 講師 末松渉氏、佐藤俊一氏

### (2) 相談員の研修

- ①電話相談員研修(1期～34期) 19グループ  
継続研修: 4月～2月 (グループ研修、個人スーパービジョン)  
講師 西浦加代子氏、木村登紀子氏、上田将史氏、佐藤俊一氏
- ②対面相談員研修  
継続研修: 4月～2月 (講義、グループ研修、個人スーパービジョン)  
講師 佐藤俊一氏
- ③自死遺族支援員研修  
継続研修: 4月～3月 (講義、グループ研修)  
講師 末松渉氏、西浦加代子氏
- ④インターネット相談員研修  
継続研修: 4月～3月 (講義、グループ研修)  
講師 上田将史氏、石川真紀氏、平田園氏
- ⑤フォローアップ研修  
継続研修: 4月～3月 (講義、グループ研修、宿泊研修、個人スーパービジョン)  
講師 末松渉氏
- ⑥全体研修会  
第1回(6/2) 講師 清水栄司氏「相談員の心のケア」  
第2回(1/19) 講師 上田将史氏「傾聴の活かし方」
- ⑦事例検討会  
第1回(2/15) 講師 西浦加代子氏「むずかしい電話をどう受けるか」
- ⑧外部研修
  - ・全国研修担当者研修会(12/3)
  - ・自死遺族支援実施センターオンライン研修(2/9)

## Ⅲ 活動報告

### 1. 理事会・評議員会の開催

理事会 5月22日 10月29日 2025年3月12日

評議員会 6月19日 11月20日 2025年3月24日

### 2. 社会福祉法人千葉いのちの電話・千葉県いのちの電話協会35周年記念事業開催

日時：10月26日（土）13：10～

場所：ホテルポートプラザちば

■記念誌発行 12ページ全カラー 500部

■記念講演会 「悩みがあったら相談に来てくださいーこの呼びかけの“弱点”は何か」  
講師：岡 檀氏 オンラインで講師と会場をつなく。

■参加者は来賓、退局者、活動ボランティア、休務者、相談員を合わせて151人。

■今回は、2024年8月までに退局された1,017人の元相談員のうち、消息の分からなかった924人の方に、感謝の意味を込めて、ご招待の葉書を投函。その結果、219通の返信があり、当日32人が記念式典に参加してくれた。休務者42人のうち1人も参加した。投函した葉書のうち、他界連絡が17通、宛先不明が277通、返信無しが428通だった。

### 3. 部会・委員会活動

#### (1) 研修委員会

(5/20、10/28、3/11)

- ・36期養成講座の募集と応募への対応
- ・2025年度事業計画
- ・35期ボランティア相談員、合同2期研修担当者の認定
- ・インターネット相談員、対面相談員の認定
- ・37期養成講座の基本的な考え方

#### (2) 研修専門家部会

(5/6、7/22、10/30、3/26)

- ・36期養成講座カリキュラムの検討
- ・電話相談継続研修の実施
- ・2025年度事業計画
- ・35期養成講座、4事業合同研修担当者養成講座の判定
- ・インターネット相談員、対面相談員の判定
- ・37期養成講座の基本的な考え方

#### (3) 研修ボランティア部会

(4/6、6/1、7/6、9/7、10/5、11/2、12/7、1/4、2/1、3/2)

- ・各事業研修報告
- ・35期養成講座、4事業合同研修担当者養成講座の実施状況
- ・インターネット相談員、対面相談員養成研修の実施状況
- ・36期養成講座カリキュラムの検討
- ・SNS相談の現状
- ・研修ボランティア部会の活動
- ・2025年度事業計画
- ・研修体系の整理
- ・37期養成講座の基本的な考え方

#### (4) 運営協議会

1. 毎月開催
2. 4事業活動報告・見通しの共有と提議事項を協議する。主な検討テーマは以下の通り
  - ①リスクマネジメント、大災害等の非常時の対応について
  - ②ボランティア活動費規程等の整備

#### (5) 事業委員会

1. 定例会議（運営協議会に含まれている）
  - 1) 対面相談事業からの外部相談活動時における交通費について
  - 2) 相談援助活動時における緊急対応のフローチャート作成について
2. 臨時会議（運営協議会の開催後に3回開催）
  - 1) 緊急対応フローチャートの確認
  - 2) ガイドブックの改訂の確認
  - 3) 来年度担当事業への引継ぎ
3. 親睦会の開催は、35周年開催に協力することによって、独自の開催なし
4. ガイドブック作成  
新規分を作成し、35期生に認定式にて配布、既相談員配布分は改訂表を作成した。
5. 2024年度の委員長は、電話相談事業部会が担当した。

#### (6) 総務財務委員会

1. 船橋市自殺予防週間及び健康増進普及月間パネル展 参加（9/1～9/31）
  - ・ポスター、チラシ、PRカード、リーフレット、ポケットティッシュを掲示、配布
2. 35周年記念式典実行委員会に参加、協力
3. ふなばし健康まつり出展（11月3日）
  - ・ポスター、チラシ、PRカード、リーフレット、ポケットティッシュを掲示、配布
  - ・対面相談実施
  - ・カラー判断コーナー
4. 2024年度認定式、永年表彰式、親睦会開催
  - ・日時 2025年3月22日（土）13時～16時半
  - ・場所 CIDビルセミナー室
  - ・認定式 認定者 35期電話相談員9名 対面相談員4名 インターネット相談員1名
  - ・永年表彰式 該当者35名 出席者27名
  - ・親睦会 34期相談員有志を中心に親睦を図った。

### ■財務・総務部会

- ・2025年度事業計画・予算書の作成
- ・図書の整理

### ■ボランティア増強部会

1. 定期的部会の開催
    - ・2024年度は、土日を中心に9回部会を開催
  2. 主な活動
    - ①第36期ボランティア相談員募集のチラシと募集案内の配布（8月～）
    - ②第36期ボランティア相談員募集事前説明会の開催
      - ・1回目 10月6日事前説明会
      - ・2回目 11月3日公開講演会「傾聴の活かし方」上田将史氏 事前説明会
- ◎応募者は31名あったが、応募面接や辞退等により20名が4月開講の養成基礎研修に進んだ。

## ■ 広報啓発イベント部会

### ■ 広報プロジェクト

- 広報誌79号 (A 4白黒6ページ) 2000部 6月10日発行
- 広報誌80号 (A 4カラー6ページ) 2000部 11月10日発行
- 広報誌81号 (A 4カラー6ページ) 2000部を2025年6月10日発行に向けて企画・取材を行う。

### ■ 講演会プロジェクト

- フリーダイヤル公開講演会 開催
  - ・ 12月1日 「あきらめない力」 講師：村木厚子氏 千葉市生涯学習センター 局内にて、相談員対象に録画視聴 (12/21日、1/16日)
- 広域広報活動
  - ・ 県内「自殺対策担当」部署15か所に発送 (ポスター、PRカード、リーフレットのセット)
- 2025年度フリーダイヤル公開講演会開催に向け準備中
  - ・ 2025年12月6日「SOSを出す勇氣」 講師：信田さよ子氏 千葉市文化センターセミナー室

### ■ イベントプロジェクト

- 千葉県ののちの電話協会主催のコンサートの企画運営のサポート
  - 5/31 (金) ナターシャ・グジー 千葉市文化センター
  - 11/16 (土) ピアニスター☆HIROSHI 千葉市民会館
- イベントプロジェクトは、協会の中で活動するので、2025年度から広報啓発イベント部会での活動は休止する。

## (7) 事務局

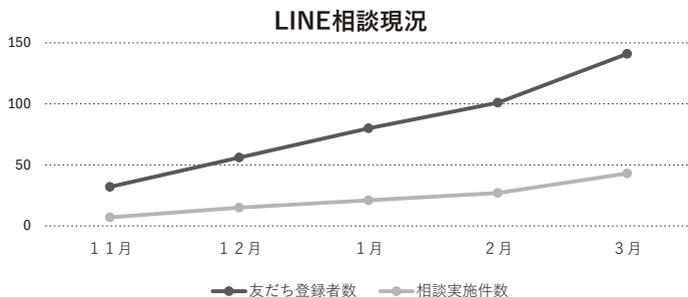
### 1. LINE相談トライアル結果報告

期 間：2024年10月～2025年3月

実施回数：18回 (月3回、第2・3・4日曜日の16時～19時に受付)

相談件数：43件 (1回あたり平均2.4回)

友だち登録者数：141人



	11月17日	12月16日	1月19日	2月11日	3月31日
友だち登録者数	32	56	80	101	141
相談実施件数	7	15	21	27	43

① 相談者の性別は電話相談と同様に女性が61%と多い。

② 年代別では30代が15件で35%と一番多く、10代が3件で10%。すべて中学生だった。70代以上は0%だった。

- ③精神疾患の歴あり、疑いあり、治療中の合計は60%と高い。
- ④自殺傾向については念慮、危険を合わせて20件で46%。予告忠告、実行中は0%だった。
- ⑤相談内容は対人が10件で23%と一番多い。特筆すべきは、作話やセックステレフォンがないこと。
- ⑥LINEの相談者は、30代がピークで続いて40代となっている。インターネット相談のピークが40代、電話・対面のピークが50代であることを考慮すると、他の相談事業では得られない若年層をLINE相談で開拓できる可能性がある。
- ⑦今後、2025年10月までの6か月間に、運用規定や運用マニュアルの作成などの運用関係、相談員やコーディネーターの認定や募集といった研修関係などの準備項目を、一つひとつ消化し正規運用に結び付ける予定である。
- ⑧予算については、研修費やシステム利用などで1,225,000円を計上しており、うち721,000円は千葉県共同募金会から助成を受ける予定である。

## IV 他機関との連携

### 1. 千葉県のいのちの電話協会後援事業

- (1) 第21回千葉いのちの電話ふれあいチャリティーコンサート (5/31)  
会 場：千葉市文化センター・アートホール  
出演者：ナターシャ・グジー ～水晶の歌声とバンドウーラの可憐な響き～
- (2) 第32回千葉いのちの電話チャリティーコンサート (11/29)  
会 場：千葉市民会館大ホール  
出演者：HIROSHI～客席を笑いの渦に～

### 2. 一般社団法人日本いのちの電話連盟

- (1) 第51回定期総会に出席 (6/15)
- (2) 事務局長会議に出席 (6/29)
- (3) 統計委員会に参加 (7/23、8/26、10/17)
- (4) インターネット相談実施センター会議に参加 (5/14)
- (5) 関東甲信ブロック会議に参加 (12/3)
- (7) フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」に参加  
「毎月10日」「毎日フリーダイヤル」「能登半島地震予約制フリーダイヤル」
- (8) いのちの電話ナビダイヤルに参加
- (9) 孤独・孤立電話相談ダイヤル参加
- (10) 自死遺族支援合同連絡会議に参加

### 3. 千葉県諸機関との連携

- (1) 自殺対策支援連絡協議会のメンバーとして会議に出席  
(千葉県・千葉市・浦安市・柏市・市川市・船橋市・松戸市・八千代市、白井市、横芝光町)
- (2) 千葉県精神保健福祉協議会にメンバーとして参加  
(心のふれあいフェスティバル・心の健康フェア・地域移行支援セミナー)
- (3) 千葉県精神保健福祉センター(電話相談に関する情報交換会)参加
- (4) 千葉県安全安心まちづくり推進協議会に出席
- (5) 千葉市ボランティア連絡協議会の関連行事に参加
- (6) 第18回ふなばし健康まつり参加

# 2024（令和6）年度 決算報告

## ■貸借対照表（2025（令和7）年3月31日現在）

（単位：円）

資 産 の 部		負 債 の 部	
勘定科目	当年度末	勘定科目	当年度末
流動資産	36,497,038	流動負債	416,565
現金	7,615	未払い費用	
普通預金	33,258,123	預り金	409,187
事業未収金	3,231,300	職員預り金	7,378
立替金	0		
固定資産	166,229,552	負債の部合計	416,565
基本財産	100,853,602	純 資 産 の 部	
土地	59,500,000	基本金	145,812,651
建物	41,353,602	その他の積立金	58,867,555
その他の固定資産	65,375,950	修繕積立金	2,600,000
建物	4,434,778	備品等購入積立金	10,000,000
構築物	1	ボランティア養成積立預金	5,635,891
器具及び備品	1,481,474	掌風会養成積立金	17,231,664
電話加入権	536,372	次期繰越活動増減差額	△ 2,370,181
ソフトウェア	55,770	（うち当期活動収支差額）	△ 2,083,666
修繕積立資産	26,000,000	純資産の部合計	202,310,025
備品等購入積立資産	10,000,000		
ボランティア養成積立資産	5,635,891		
掌風会養成積立資産	17,231,664		
資産の部合計	202,726,590	負債及び純資産の部合計	202,726,590

## ■資金収支決算書（2024（令和6）年4月1日～2025（令和7）年3月31日）

（単位：円）

	科 目	予 算 (A)	決 算 (B)	差 異 (A)－(B)
事業活動による収支	相談事業収入	13,333,303	13,561,303	△ 228,000
	経常経費寄附金収入	6,379,270	6,369,181	10,089
	受取利息配当金収入	2,232	12,343	△ 10,111
	その他の収入	1,637,000	1,639,000	△ 2,000
	収 入 計	21,351,805	21,581,827	△ 230,022
	人件費支出	7,155,965	6,920,193	235,772
	事務費支出	12,258,162	12,092,409	165,753
	35周年費用	1,256,568	1,256,568	
	支 出 計	20,670,695	20,269,170	401,525
	事業活動資金収支差額	681,110	1,312,657	△ 631,547
施設整備等による収支	施設整備等収入	0	0	0
	施設整備等支出	0	0	0
	施設整備等資金収支差額	0	0	0
その他の活動による収支	その他の活動収入	1,740,000	1,740,000	0
	修繕積立預金・他支出		1,000,000	△ 1,000,000
	その他の活動資金収支差額	1,740,000	740,000	1,000,000
	予 備 費		0	0
	当期資金収支差額合計	2,421,110	2,052,657	368,453
	前期末支払資金残高	57,152,250	34,027,816	23,124,434
	当期末支払資金残高	59,573,360	36,080,473	23,492,887

## 監査報告書

令和7年5月7日

社会福祉法人千葉いのちの電話  
理事長 友田直人 様

監事 大森 董  
監事 稲本 守次

私達監事は、令和6年4月1日から令和7年3月31日までの令和6年度（2024年度）理事の職務執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次の通り報告いたします。

### 1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済資料を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告等（事業報告及びその付属明細書）について検討いたしました。さらに会計帳簿又はこれに関する資料の調整を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその付属明細書）及び財産目録について検討いたしました。

### 2. 監査意見

#### (1) 事業報告等の監査結果

事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い法人の状況を正しく示しているものと認めます。

理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

#### (2) 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純財産の増減の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

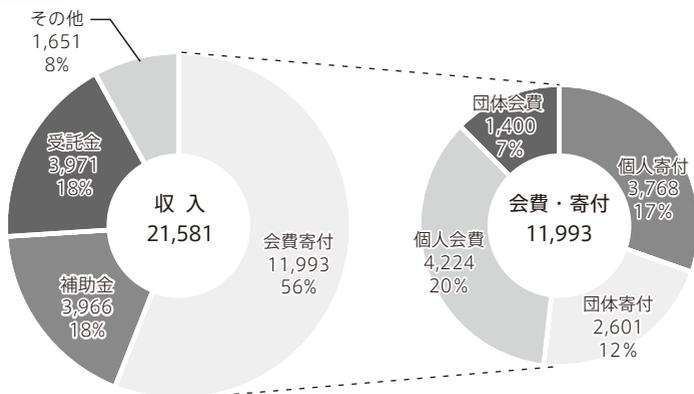
## ■2024（令和6）年度補助金等内訳

（単位：円）

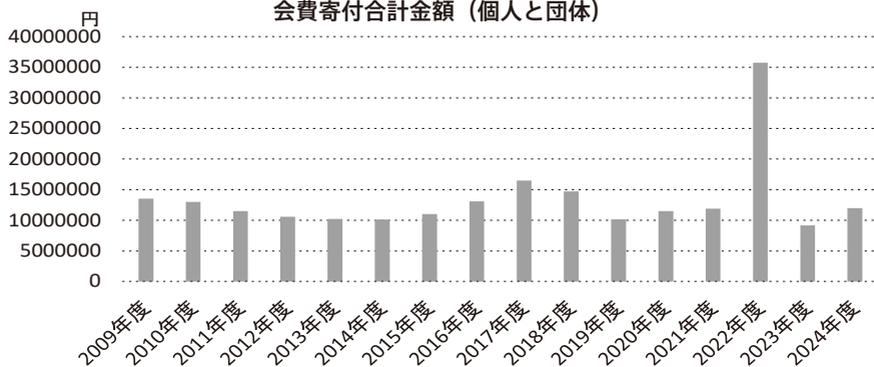
千葉県（電話相談員研修費）	1,300,000	自死遺族支援事業	
千葉県強化基金	491,000	千葉県受託事業	1,746,300
千葉市（電話相談員研修費）	500,000	柏市受託事業	185,000
千葉市（自死遺族支援）	200,000	計	1,931,300
千葉県共同募金会	722,000		
日本のちの電話連盟	753,003		
計	3,966,003		

## 財務報告

### 2024年度収入の内訳（単位：千円）



### 会費寄付合計金額（個人と団体）



令和6年度の収入は21,581,827円。このうち、会費寄付が収入の56%。昨年に比べて、会費寄付が増加したことで、35周年記念行事で寄付を頂いたことにより昨年度より約280万円、会費寄付の合計が増えました。

#### ■大口団体寄付（5万円以上）ありがとうございました。

敬称略（アイウエオ順）

上野社会保険労務士事務所、カトリック西千葉教会、金坂医院、医療法人グリーンエミネンス中村古峽記念病院、京葉銀行社会活動推進室、京葉銀行小さな親切運動推進本部、（一社）生命保険協会千葉県協会、千葉県流通商防犯協力会、千葉興業銀行ともしびの会、千葉信用金庫、千葉大学医学部付属病院看護部、千葉ロータリークラブ、東金教会ときがね幼稚園、長谷川化学工業（株）、（有）やまあき、連合千葉

# 2025（令和7）年度 事業計画基本方針

## 1. 基本理念の浸透

精神的危機に直面し苦悩している人に傾聴を基本姿勢として寄り添う相談活動を通して、裾野の広い自殺予防活動を行う。これらは、善良な市民の自らの意思による無償の行為である。いのちの電話関係者はこの基本理念を共有し、浸透させること。

## 2. 千葉いのちの電話の一般県民への広い周知とボランティア確保

自殺予防活動を目的とし活動するこの働きを、広く県民の一人一人に広報すると共にボランティアへの参加促進をアピールする。

## 3. 新組織の理解促進と定着

・法・社会・利用者・相談員等の要請にこたえるため組織・各内規等の整備を進める。  
・内部での理解・改善・見直しを、対話を基に進める。

## 4. 施設整備の実施

・特に経年劣化に注意しながら、建物・設備の点検と整備の計画化。  
・整備資金積立の実行。

## 5. 財政基盤の健全な強化

・安定的な寄附金収入の確保と拡大のため、維持会員を更に獲得する方法の検討と実施。  
・特に新規の企業・団体・個人へ賛同を訴求する新たな手法を構築する。

## 6. リスクマネジメント活動の推進

・様々な非常事態を想定し、相談員や設備、組織を保護することと相談活動の安定的継続を目的に、対策のマニュアル化と相談員への周知を目指す。

## 7. 事業継続計画（BCP）の計画策定

## 8. 将来像の検討

・基本理念に基づき、社会の変化に対応した、将来の千葉いのちの電話のあり方を検討する。  
・資質向上と研修体系のさらなる検討  
・SNSを活用するネット相談の実施  
・若年層の相談のあり方の検討（被相談者及び相談員の可能性）

# 2025（令和7）年度 事業目標

## I 研修委員会

研修全般に関する方針策定、研修計画・予算案の承認  
研修の課題への対応及び決定

### (1) 研修専門家部会

研修に関する事項や課題について専門家の立場から協議・提言・提案を行う。相談員の判定・認定を行う。

### (2) 研修ボランティア部会

研修専門家部会とともに、研修計画の策定、予算の作成、決定された研修の実施を行う。

## II 事業委員会

適切な相談活動の維持・継続のための、直接的な施策の検討と実施。

すなわち円滑な相談活動のため、相談員への配慮をしつつ関係団体との調整を実施する。また、記録の整理・分析と保存、福利厚生、環境整備を実施する。各部会毎のテーマは以下の通り。

- ・電話相談事業部会：24時間体制確保と日本いのちの電話連盟との連携の強化、電話相談担当の調整、相談環境の改善
- ・インターネット相談事業部会：非会話の特性を生かした特に若年層利用の拡大
- ・対面相談事業部会：地域への開かれた相談の場所として利用者の拡大
- ・自死遺族支援事業部会：コロナ禍以降の利用者に対し、わかちあいの会ひだまりの役割の充実
- ・SNS相談の実施と拡大

## III 総務財務委員会

適切な相談活動の維持・継続を側面より支える活動  
自殺予防の啓発、相談員の拡大、財務支援の増強等のため、広く県民に千葉いのちの電話の存在を周知し、理解と協力を仰ぐ。各部会のテーマは以下の通り。

- ・ボランティア増強部会：ボランティア募集と応募者の拡大
- ・広報啓発イベント部会：年2回の広報誌の発行、講演会の開催などによって千葉いのちの電話の県民への周知と財政支援を図る。

・財務総務部会：事業計画・予算案作成を中心に、健全な事業の遂行と財務基盤の拡張

## IV 事務局

事業計画・予算に則し各事業の円滑な推進を図る。  
消防計画の見直し及び防災設備点検  
役員体制の強化  
BCPの策定

## 2025（令和7）年度 一般会計予算

2025年4月1日～2026年3月31日

科目	予算額
<b>【収入の部】</b>	(単位：円)
会費収入	4,500,000
補助金事業収入	3,821,000
受託金収入	3,960,000
寄付金収入	6,800,000
雑収入	1,212,500
積立金取崩収入	2,000,000
<b>当期収入合計</b>	<b>22,293,500</b>
<b>【支出の部】</b>	(単位：円)
人件費支出	7,486,504
事務費支出	14,085,416
予備費	721,580
<b>当期支出合計</b>	<b>22,293,500</b>

## 千葉県いのちの電話協会

「千葉県いのちの電話協会」は社会福祉法人千葉県いのちの電話の後援会です。

千葉県いのちの電話の財政的支援を主として各種支援事業（活動ボランティアによる手づくり作品の販売・チャリティーバザーなど）を行っており、年2回開催するコンサートは収益事業であると共に、幅広く地域の皆様に千葉県いのちの電話の活動にご理解とご支援をお願いする広報活動でもあります。1990年10月の結成から34年目を迎えることができ、これまでご支援を頂いた皆様には深く感謝申し上げます。

2024年度は法人と合同で周年記念を行いました。

◆お陰様で昨年度は、第21回千葉県いのちの電話ふれあいチャリティーコンサート「ナターシャ・グジー」および第32回千葉県いのちの電話チャリティーコンサート「ピアニスター★HIROSHI」を無事開催することができました。

バザー・手づくり会では、声の花束（視覚障がい者支援チャリティーコンサート）千葉県刑務所矯正展に出店しました。内部販売用には、皆様よりバザー品の提供や日清製粉（株）、千葉製粉（株）、新東日本精糖（株）、古谷乳業（株）、理研ピタミン（株）の各社様より食品寄贈がありました。

◆イオン社会貢献事業「幸せの黄色いレシートキャンペーン」参加

2009年3月より、イオンマリンピア店（稲毛海岸）にて応募・登録・参加しております。このキャンペーンは活動団体の中から、購買者が指示する団体に黄色いレシート（毎月11日発行）を提供、年度末にその金額合計の1%が各団体へ（株）イオン様よりイオンギフトカードとして贈呈される仕組みです。2024年度は34,200円（累計785,400円）のご支援をいただきました。今年度からは黄色いレシート対象店舗がマリンピア店（稲毛海岸）1店舗のみとなりました。

### 2025（令和7）年度 コンサートのご案内

◆第22回千葉県いのちの電話ふれあいチャリティーコンサート

6月7日（土）千葉市文化センター アートホール  
ウクライナの歌姫「ナターシャ・グジー」コンサート

◆第33回千葉県いのちの電話チャリティーコンサート

11月22日（土）千葉市民会館 大ホール  
「小野リサ ボサノバ」コンサート

■大口団体寄付（3万円以上）をありがとうございました。 敬称略

千葉銀行 千葉興業銀行 千葉信用金庫 小さな親切運動ちばぎん支部

# 社会福祉法人千葉いのちの電話 役員名簿 (敬称略) 2025 (令和7) 年7月1日

## 顧問

佐藤 甫 夫	元千葉大学医学部 教授	山口 光 治	淑徳大学 学長
長谷川 匡 俊	学校法人大乗淑徳学園 理事長		

## 理事長

友田 直 人	元社会福祉法人千葉バタニヤホーム 理事長
--------	----------------------

## 理事

佐藤 俊 一	NPO法人スピリチュアル ケア研究会ちば 理事長	松崎 泰 子	元淑徳大学 教授
斎藤 浩 一	千葉いのちの電話 事務局長	三橋 和 弘	社会福祉法人 一粒会 監事 一般社団法人 日本いのち の電話連盟 監事
清水 新 二	奈良女子大学名誉教授		
高橋 宏 子	千葉いのちの電話ボランティア	中村 博 子	愛国学院大学 人間文化学部 教授
林 倬 明	千葉県精神保健福祉センター センター長		

## 監事

大森 薫	大森税理士事務所 所長	裕本 守 次	NPO法人キッズパレット昭和 小放課後児童クラブ館長
------	-------------	--------	-------------------------------

## 評議員

青木 一 芳	千葉YMCA 理事	長谷川 仁	一般社団法人生命保険協会 千葉県協会 事務局長
因幡 和 久	医療法人グリーンエミネンス 中村古峽記念病院 看護師長	長谷川 昌 江	元千葉いのちの電話ボランティア
今井 一 雄	今井法律事務所 弁護士	花崎 みさを	社会福祉法人一粒会 理事長
佐藤 誠	NPO法人千葉県精神障害者・ 家族会連合会 副理事長	福田 浩 子	公益社団法人千葉県看護協会 事業部長
岸 憲 秀	千葉YMCA 理事長	南 久 志	公益社団法人千葉県保健医療 事業団 常務理事兼事務局長
鈴木 鉄 也	千葉県社会福祉協議会 常務理事兼 事務局長	宮崎 弘 志	一般社団法人千葉県労働者 福祉協議会 常務理事
武内 貢 一	社会福祉法人千葉県共同募金会 常務理事	富田 薫	社会福祉法人千葉県社会 福祉協議会 常務理事
永富 博 之	日本労働組合総連合会 千葉県連合会 会長	吉松 靖 子	元千葉いのちの電話ボランティア

## 研修専門家部会

上田 将 史	NPO法人 志木市精神保健 福祉をすすめる会 理事長	佐藤 俊 一	NPO法人スピリチュアル ケア研究会ちば 理事長
木村 登紀子	聖路加国際大学 名誉教授 桜クリニック 臨床心理士	末松 涉	東京いのちの電話 理事長
		西浦 加代子	元ルーテル学院大学付属 PCGカウンセラー

## 千葉県いのちの電話協会(後援会) 役員名簿(敬称略) 2025(令和7)年7月1日

### 顧問

白井日出男	元衆議院議員	青柳俊一	千葉興業銀行 取締役会長
牧之瀬孝	千葉銀行 取締役常務執行役員	宮澤英男	千葉信用金庫 理事長
綿貫弘一	京葉銀行 相談役	大澤克之助	千葉日報社 相談役

### 相談役

阿部紘一	千葉県議会議員	堀江はつ	元千葉県議会議員
小川善之	元千葉市議会議員	米持克彦	千葉市議会議員
佐久間隆義	元市原市 市長		

### 名誉会長

安田敬一	公益財団法人安田教育振興会 理事長
------	----------------------

### 会長

橋本妊壽奈	元成田ユネスコ協会婦人部長
-------	---------------

### 副会長

鈴木和成	鈴木測量株式会社 会長	吉成庸子	作家・エッセイスト
島田行信	学校法人市川学園 理事		

### 理事

天野和子	千葉いのちの電話活動ボランティア	齊藤朝江子	有限会社エダブン 代表取締役
新井隆太	新井総合施設株式会社 代表取締役社長	重宗光子	千葉いのちの電話相談ボランティア
遠藤宏之	株式会社シティハウス 代表取締役	友田直人	千葉いのちの電話 理事長 元社会福祉法人千葉ベタニヤホーム 理事長
日下忠文	日下医院 院長 元千葉いのちの電話 理事	豊田重俊	有限会社豊工業 取締役
栗栖美千夫	東日本旅客鉄道株式会社 千葉支社 鉄道事業部 指令・サービス品質改革ユニット リーダー		

### 監事

大森薫	大森税理士事務所 所長
-----	-------------

## ご支援のお願い

### ●あなたのご支援を必要としています

千葉いのちの電話の活動は、多くの善意あるボランティアの無償の奉仕によって支えられています。24時間365日眠らぬダイヤルの維持や建物管理、研修生の訓練や相談員の継続研修、広報活動などのために、年間約2000万円の経費が必要となっております。現在、全国の自殺者は警察庁の発表によると令和6年は20,320人、千葉県内では923人になっています。「死にたい!」と訴える相談者のこころは、「生きたい! 助けて!」です。その声に寄り添うために、一人でも多くの方に資金ボランティアとして千葉いのちの電話を支えてくださいますようお願い申し上げます。

### ●ご寄付の税額控除について

千葉いのちの電話では、令和4年10月11日から5年間税額控除が受けられるようになりました。税額控除証明書を領収書と一緒に印刷しておりますので、確定申告の際にはどうぞ活用下さい。詳細は事務局までおたずねください。

### ●維持会員、寄付者会員になってください

- ◆個人会員 年額1口 2千円 (何口でも)
- ◆団体会員 年額1口 1万円 (何口でも)  
上記の額を毎年継続して納入して頂ける個人や団体
- ◆寄付者会員 この社会福祉法人の主旨に賛同して頂き、寄付金を納入していただける方、金額は問いません。

### 《お振込は下記のいずれかをご利用ください》

- ・郵便振替 / 00110-0-366563  
<加入者名>「社会福祉法人 千葉いのちの電話」
- ・銀行振込 / 千葉銀行 県庁支店 004 (普) 2115973  
京葉銀行 本店 080 (普) 8897411  
千葉興業銀行 千葉支店 111 (普) 6182171  
千葉信用金庫 本店 001 (普) 0580786  
<口座名>「社会福祉法人 千葉いのちの電話 理事長 友田直人」

### 社会福祉法人 千葉いのちの電話 事業案内

発行日 2025年7月1日  
発行者 理事長 友田直人  
事務局 〒260-0012  
千葉市中央区本町3-1-16 CIDビル  
TEL 043-222-4416  
FAX 043-227-6911  
<https://www.chiba-inochi.jp>  
E-mail [ll-chiba@chiba-inochi.jp](mailto:ll-chiba@chiba-inochi.jp)  
エルエル

